

# 【様式】 令和5年度 福井県立丸岡高等学校 学校関係者評価書

<p>(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 ・その他</p>
<p>(意見を聞いた方) 坂井市総合政策部次長 兼 企画政策課長 長谷川正広 様 丸岡城天守を国宝にする市民の会理事長 瀬野 友伸 様 丸岡ロータリークラブ会長 竹吉 睦 様 PTA会長 中出奈津枝 様</p>
<p>(意見欄)</p> <p>○教育課程・学習支援 ・「探究的な学び」は今後の社会において必須のスキルになると思うので今後も重点的に取り組んでほしい。 ・「みらい」の授業の一環で自宅でもオンライン交流など多くの経験をしている。この時間を生徒や保護者自身も家庭学習の時間と捉えていく必要がある。すぐに数値としての成果は出ないが大学生や社会人となってから実感できる力を大切に育てていただきたい。</p> <p>○生徒支援 ・ブラック校則の見直しなど社会状況を鑑みて柔軟に対応している。生徒と教職員が検討を重ねて変更している点も「探究的な学び」に繋がる意思を感じた。評価項目に社会性や自主性、自立心が身についたかどうかを問うとよい。 ・得意な部活動だけ頑張るのではなく、むしろ学習やその他の特別活動など不得意なことから逃げずに真剣に取り組む生徒を育成してもらいたい。</p> <p>○進路支援 ・今年度も一般入試に加え、探究活動の成果を活かして推薦入試や総合型選抜で多くの生徒が国公立大学をはじめとする大学に進学している。最後まで粘り強くチャレンジする姿勢は大変素晴らしかった。 ・生徒が自分の進路に向き合うために様々な活動を行っているが、どの手立てが有効で、どの活動が有効でなかったのかを検討し、改善に結びつくような評価項目に期待する。</p> <p>○保健管理 ・ノー残業デーの実施、定時退庁について、「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員が、昨年度の84%から今年度は61%に大幅に減少している。職員会議のペーパーレス化や会議の時間短縮等の工夫を継続し、清掃活動は生徒のみで実施したり、いじめや不登校問題は専門職を置くなど教職員の業務を根本的に見直すべきである。 ・生徒の心身の健康状態が的確に把握されているか、外部に伝わる評価になるともっとよくなると考える。</p> <p>○図書整備 ・学校図書館が果たす役割は大きい。生徒の「居場所」としても充実していく様子が見れてとても嬉しく感じる。今後はさらに図書館のデジタル化、電子書籍の導入を生徒、教職員のために検討いただきたい。</p> <p>○広報活動、PTA・同窓会活動 ・広報活動の重要性はとて高まっている。ホームページや一斉メール、学級・学年・PTAだよりや同窓会会報などの更新・発行頻度が適切か、またそれぞれの広報活動が関連づいているかの検討に繋がる評価にしてほしい。 ・コロナの規制がほぼなくなった今日、校内だけではできないことをPTAとの連携で実現していくとよい。</p> <p>○全体(総括) ・探究的な学びの中で、地域の方や議会に課題を提案するだけでなく、提案を実現し、一緒にまちをつくってもらいたい。行政はその提案を実現する支援ができればと考えている。 ・地域の未来を担う人材の育成に携わってくれていることに大変感謝している。丸岡高校は地域にとって大切な文化拠点であるので、今後も大変期待している。 ・取り組み内容もプランニングもしっかりと考えられており非常に感心した。多様性が問われる社会において、社会情勢にアンテナを伸ばし、時代に即した人材育成に努めてほしい。</p>
<p>(学校関係者評価を踏まえた今後について) いただいたご意見やご指摘を真摯に受け止め、次年度の教育活動に反映し、各校務分掌で、さらなる学校づくりの質向上を図ります。地域との交流の機会をより多く設け、学校の魅力発信に努めるとともに、生徒の進路実現を目指して学力と探究活動の両面での支援を工夫します。 特別活動への積極的な参加や自ら健康を管理する態度の育成、安全や環境整備に対する意識の涵養、幅広い教養を身につけさせる読書活動推進を今後も継続し、いっそうの充実・発展に努めて参ります。 教材研究や自己研鑽に励むとともに、業務のオンライン化、デジタル化を推進し、働き方改革をより深く見直していくことに努めてまいります。 また地域や保護者の方とのさらなる連携を図り、生徒が主体的に活動できる丸岡高校生を育てる努力を重ね、地域との協働による持続可能な教育活動を目指し、地域から信頼を得る学校づくりをめざします。</p>